

愛媛県瀬戸内海沿岸で確認されたフトミゾエビ

清水孝昭¹

¹ 愛媛県農林水産研究所水産研究センター



写真1 *Melicertus latisulcatus* (Kishinouye, 1896) フトミゾエビ (TKPM-AR 3247)

種の記録

Penaeidae クルマエビ科

Melicertus latisulcatus (Kishinouye, 1896)

フトミゾエビ (写真1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3247. 採集年月日: 2008年7月31日. 採集場所: 今治市桜井(桜井沿岸から比岐島の間). 採集方法: 小型底曳網. 採集個体数: 1 個体(♀). 全長 136.5mm, 体長 121.5mm, 頭胸甲長 35.5mm.

種の特徴

標本個体は体色が淡黄褐色で、正中隆起や尾肢の先端が褐色であること、第1触角の上下鞭がほぼ同じ長さであること、額角上縁に10本、下縁に1本の歯があること、眼窩後棘がないこと、頭胸甲の正中隆起は後縁付近まで伸び、額角側溝は幅が正中隆起より広いこと、頸溝は正中線に達しないこと、第3-5腹肢は2葉であること、第6腹節に縦溝がないこと、尾節に3本の可動棘があることなどの特徴により、本種と同定された(林, 1992). 個体は横板が左右2葉からなる雌性生殖器を有しており、メスと判断された。

備考

本種は中央太平洋海域を除くインド・西太平洋に分布するが日本では多くないとされ、太平洋側では千葉県、日本海側では山口県(稀に石川県)に出現する(林,

1992). 瀬戸内海では岡山県、大阪府などから記録がある(佐藤ほか, 2005; 有山ほか, 2006). 本報告は標本に基づく愛媛県瀬戸内海域からの初記録となる。

謝辞

標本を登録いただいた徳島県立博物館の井藤大樹、鈴木佑弥の両氏ならびに標本の収集にあたって便宜を図っていただいた愛媛県漁業協同組合桜井支所に感謝の意を表する。

引用文献

- 有山啓之・日下部敬之・大美博昭・辻村浩隆. 2006. 岸和田沖の人工砂浜に出現した十脚甲殻類. 大阪府立水産試験場研究報告, (16): 21-39.
- 林 健一. 1992. 日本産エビ類の分類と生態. I. 根鰓亜目. 生物研究社, 東京. ix+300pp.
- 佐藤二郎・福田富男・古村振一. 2005. 岡山県東部地区小型定置網における小型魚保護対策について. 岡山県水産試験場研究報告, (20): 1-13.

(2025年3月3日受付, 2025年3月5日公開)

連絡先: 清水孝昭 (e-mail: simizu-t@sky.hi-ho.ne.jp)

(Takaaki Shimizu. 2025. Record of *Melicertus latisulcatus* (Penaeidae) from Seto Inland Sea, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 25003)